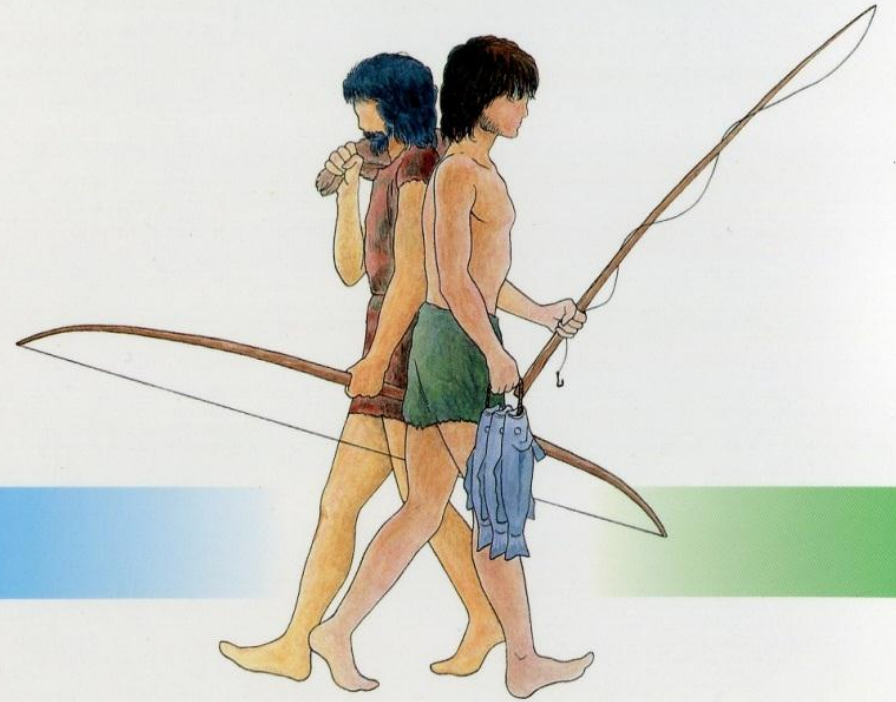


発行 豊中市教育委員会  
1993年3月31日発行  
編集 社会教育課文化財保護係  
印刷 共同印刷株式会社



とよなか文化財ブックレットNo.2 通史編Ⅱ



# 縄文の狩人

— 森と海にささえられた ゆたかな生活 —

豊中市教育委員会

### 穂積遺跡第14次調査の現地説明会

1993年8月7日、くもりがちの肌寒い天気にもかかわらず、約1000名にも及ぶ親子づれが発掘現場を訪れました。調査担当者による説明、長ぐつ・スコップ持参の貝化石採集体験、それに専門の先生による貝の鑑定などなど。

参加者全員が4500年前の海を実感する1日となりました。

## じょうもんじだい うみ 縄文時代の海

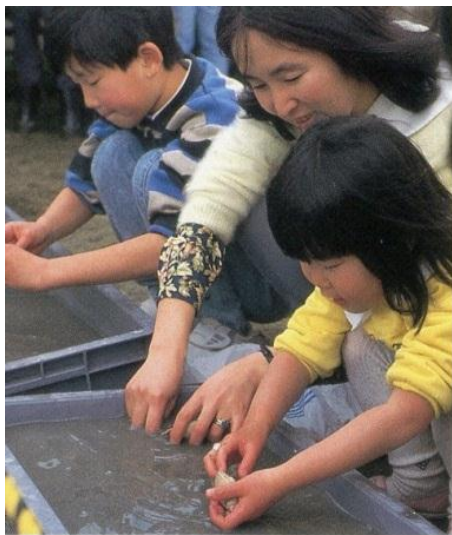
1992年12月、服部西町4丁目の服部西コミュニティ住宅建設予定地から、貝殻をふくむ厚い砂の層がみつかりました。どうしてこのようなところから貝殻が見つかるのでしょうか？

いまから約6000年前、地球全体がいまより暖かくなった時期がありました。縄文時代前期の頃です。その結果、海面は今より2～3メートルも高くなり、海の水がどんどん陸地に押し寄せました。大阪平野にもたくさんの海水が流れ込んで、海が大きく広がりました。

そうです。掘り出された多くの貝殻は、この頃、服部や庄内がまだ海の底だったことを教えてくれたのです。

縄文時代の海。どんな貝がすんでいたのかな？クジラは泳いでいたのかな？

やよいちゃんやけんた君といっしょに探検してみましょう。



きれいに洗おうね！



オオノガイの群集（生きていた当時の状態で、ほとんどが立ったまま出土した）



なにがでてくるかな？



この貝の名前は？



ヤッタ！こんなにとれたよ



4500年前 / エエツ、ホント！



けんた 「たしか、今から2万年〜1万7000年前は、とても寒い氷河期の頃で、海面が100メートルも低かったんだよね。瀬戸内海なんて完全に干上がっていて、そこを旧石器人たちが槍をもってソウを追っかけていた。」

やよい 「そうね。でもそのあと一万年ほどの間に、気候がだんだんと暖かくなってきて、北極や南極の氷が溶けてきたっていうわ。そして海の水かさかどんどん高くなってきた。」

けんた 「どのくらい高くなったのかなあ？」

やよい 「いちばん高くなった時で、今の海面より2〜3メートル上。約6000年前の縄文時代前期の頃よ（縄文海進といいます）。」



### 4500年前の貝層を掘る

ねんまえ かいそう ほ  
も、この貝が4500年前のものだとはいっても信じられないね。」

やよい 「みてみて、けんた君。ホラ、こんなに大きな貝殻よ！」

けんた 「ほんと、すごいや！それにして、この頃に服部のあたりが海の底だったなんて、ほんとにびっくりしちゃう。」



ホラ、おかあさん！



穂積遺跡(服部西町4丁目)で採集された貝化石

1. オオノガイ 2. ハマグリ 3. カガミガイ 4. チリメンユキガイ 5. サルボウガイ 6. キヌタアゲマキ 7. バイガイ 8. ツメタガイ 9. ネコガイ 10. ゴマフタマガイ 11. ハマグリ 12. ナミマガシワ 13. アラムシロ 14. イボキサゴ 15. イボウミナ 16. マガキ



ウニとサメの歯



縄文土器のかげら(右の二つは土器片でつくった網のおもり)

**けんた** 「ということは、一万年ほどの間に、海面が1000メートル以上上がったこと」

**やよい** 「そういうことね。それまで陸になってた瀬戸内海にも、たくさん海の水が流れ込んできて、大阪平野の真ん中あたりにも、大きく海が広がったらしいわ。」

**けんた** 「へえー、いまじゃとても想像できないね。」

**やよい** 「それから1000年ほどの間に、少し気候が涼しくなって、海がしだいに沖のほうへ退きはじめてたのよ。でもまだ服部のあたりは海だったようね(右ページの図)。うん、けんた君。これ、なんだかわかる? (上段右下の写真)」

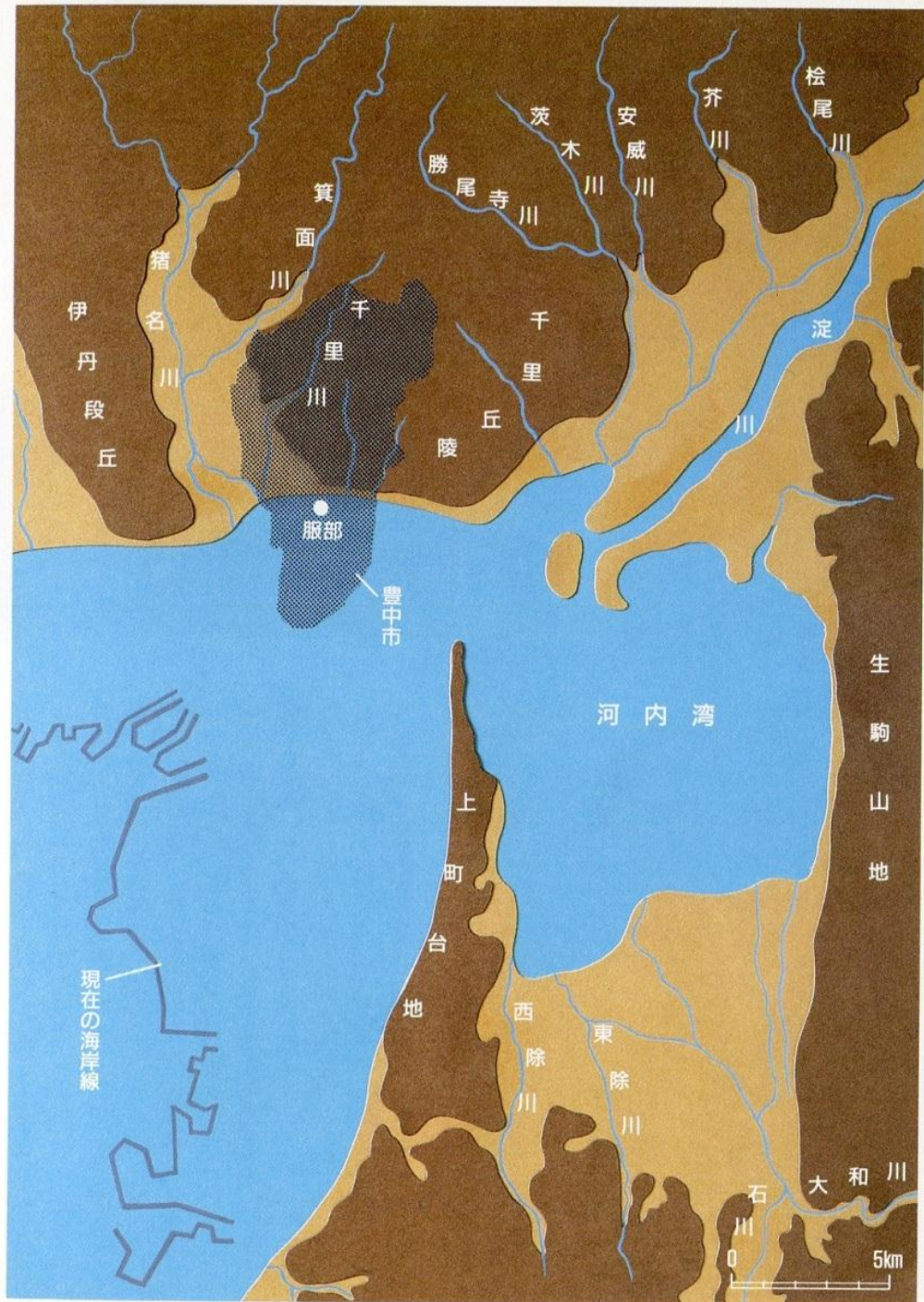
**けんた** 「こ、これ、もしかして土器かい?」

**やよい** 「これはね、縄文時代の人が使ってた土器なんだって。表面に縄の目の文様がついているでしょ。それにこの二つのかけら、はしっこに小さな切り目があるでしょ。網につけたおもりらしいわ。」

**けんた** 「ええっ? ということは、縄文人がここで魚をとってたってこと?」

**やよい** 「そ、そういうこと。たぶん、いま目の前にあるような貝なんかも、とって食べてたんじゃない?」

**けんた** 「うーん、この服部に縄文時代の漁師たちがいた。それにこのあたりが海辺の砂浜だったなんて。なんだか丸木舟に網をのせて、沖に漕ぎ出していく縄文人たちの姿が頭に浮かんでくるようだね。」



約5000~4000年前の海

『続大阪平野発達史』 梶山彦太郎・市原実 1985 をもとに作成



じょうもんじ だいちゅうき かいがんせん  
縄文時代中期の海岸線

今から約4500年前の豊中を想像してみましょ。約6000年前、縄文海進にともなって、背後の段丘にまでうち寄せていた海は、その後、海面のわずかな低下と、川が運んだ土砂の堆積により、すこしずつ沖合に退き始めました。

海岸は、ひき潮ともなれば広い干潟となり、カニや水鳥たちの天国となりました。干潟の奥には、さっきまで水辺に生えていた葦の群落が帯をなして広がっています。

やがて潮が満ちてくると、網や竿を手にした縄文人たちが沖へ舟を漕ぎ出しました。今日の獲物はタイ、それともヒラメ？ムラで待つ家族たちのために、さあ、出発だ。

縄文時代の風景  
現在の服部西町4丁目(豊島体育館付近)から北西方向をながめたところ

## じょうもんじだい 縄文時代のムラ

じょうもんじだい  
縄文時代ってどんな時代？ そうです。日本ではじめて土器をつくるようになった時代です。そして、コメをつくることをまだ知らずに、森でシカやイノシシを追い、木の実や魚をとって暮らしていた時代です。

ではこのころ、豊中の縄文人たちは、いったいどこに住んでいたのでしょうか？

ここは千里丘陵の西のはし。山々をわけるように、はるか昔からの流れを今に伝える千里川。この千里川を見おろす、低い台地の上が、いまから10000年～2400年前もの長い間、縄文人たちの生活の舞台となりました。

緑ふかい森林と、千里川の流れに身をまかせて、たくましく生きぬいた縄文人たち。

どんな生活をしていたのかな？ 木の実はたくさんとれたかな？ やよいちゃんやけんた君たちといっしょに調べてみましょう。



10 礫群(小石が集めて置かれている)



石器の原料が出土したところ

のぼけいせき  
野畑遺跡  
西緑丘3丁目付近に所在。豊中でいちばん大きな縄文時代の集落跡。約60メートル四方の範囲から、炉跡を思わせる焼け土や礫群(小石を集めて置いたところ)、大小の土坑(地面を掘りこんだ穴)などがたくさん見つかりました。また縄文人たちが使った、おびただしい数の土器や石器もいっしょに出土しました。縄文中期末～後期前葉。



大きな円形の土坑

# もり 森に生きた人々

**やよい**「ねえ、けんたくん。服部のあたりで漁をしていた縄文人たちって、いったいどこに住んでいたのかな?」

**けんた**「オホソノぼくにまっかせなさい。じつはね、穂積遺跡の東の方や、原田西遺跡からも縄文土器がみつかったているから、当時の海岸沿いにもムラがあったかもしれないね。でも、土器が出たこと以外はほとんど何もわかっていないんだ。それよりも、ホラ、この絵をみてごらん。このあたりかわかる? (左ページの絵)」

**やよい**「真ん中を流れている川が千里川、右の高い山が島熊山かな?」

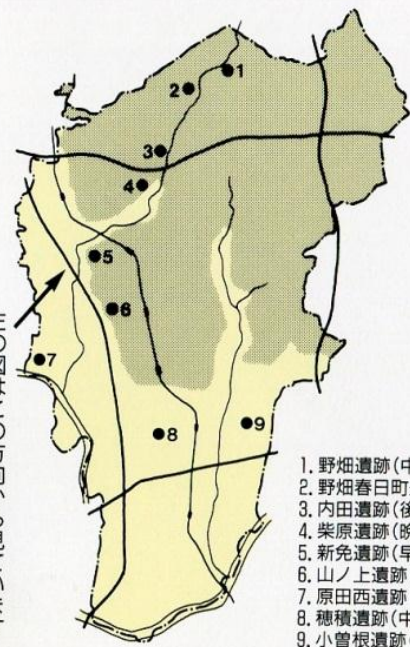
**けんた**「うん、千里川はね、千里丘陵を何十万年もの時間をかけて少しずつ削って、こんなに大きな谷をつくりあげたんだ(桜井谷)。この谷のいちばん低いところ、川を見おろす小高い段丘の上から、たくさん縄文時代の遺跡がみつかったいるんだよ。」

**やよい**「千里川の段丘の上なら川が氾濫しても大丈夫だし、山や川で獲物をとるのにも、都合がよかったのね。でも同時にこんなにたくさんムラがあったの?」

**けんた**「ううん、じつはこの絵はね、時期のちがうムラの跡を一枚の絵にまとめたものなんだ。実際には一度に一つ、多くても二つくらいのムラしかなかったようなんだ。」



千里川流域の縄文時代のムラ  
大阪空港の上空あたりから、千里川流域をながめたようす。どのムラも、千里川を見おろす低い段丘の上に立地していることがよくわかります。数10年から数100年おきに千里川流域を点々と移動しました。(高さを5倍程度に強調して描いています)



左の図はこの方向から見ています

1. 野畑遺跡 (中期～後期)
2. 野畑春日町遺跡 (中期)
3. 内田遺跡 (後期)
4. 柴原遺跡 (晩期)
5. 新免遺跡 (早期)
6. 山ノ上遺跡 (晩期)
7. 原田西遺跡 (中期)
8. 穂積遺跡 (中期)
9. 小曾根遺跡 (晩期)

縄文土器が出てきたところ

**やよい**「いちばん古いのでどれくらい?」

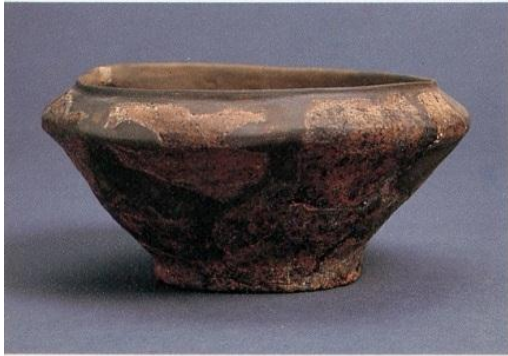
**けんた**「およそ一万年(縄文草創期)。野畑春日町遺跡で出土の槍先がちょうどこの頃のものなんだ。それに新免遺跡から出土した石器が8000年前(縄文早期)。でもこれらは石器が一点づつ出土しただけで、ムラの跡まではわかっていないらしいよ。」

**やよい**「じゃあ、そのあとね?」

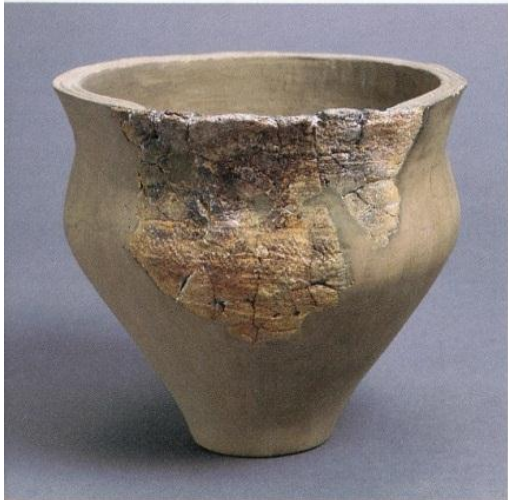
**けんた**「6000年前(縄文前期)から2400年前(縄文晩期)までのムラの跡がみつかったいるんだ。でもそれぞれのムラは数十年から数百年おきに、千里川の流域を点々と移動しながら暮らしていたようだよ。」



石のやじり(矢の先につけました)



盛りつけなどに使った土器



14 煮炊きに使った土器



す 磨り石と台石



人の狩猟によって絶滅しちゃったらしいんだ。それにかわってふえてきたのがシカやイノシシ。すばしこいから、弓矢が威力を発揮したんだらうね。」

「やよい」気候が暖かくなったから、自然のようすもすいぶんと変わったんでしょね。」

「けんた」それまではブナやコユウマツのような、涼しいところにしか生えない植物しかなかったんだけど、縄文時代になるとシイやカシなど、一年中青あおとした植物が森をおおっようになっただらうね。」

「やよい」森ではどんなものを採集していたのかな？」

「けんた」おもにドングリ。それに湿度の高い森だから、いろんな種類のキノコもはえていただらうね。」

※13、14ページの写真は野畑遺跡からの出土品



ドングリをつぶす磨り石



けんた「ところで、やよいちゃん。縄文時代って、どんな時代だったっけ？」

やよい「縄目の文様のついた土器、つまり縄文土器を使っていた時代でしょ。」

けんた「そうだね。旧石器時代には石器が主な道具だったけど、縄文時代になるとはじめて土器が使われるようになったんだ。それに、まだコメをつくることを知らなかったから、狩猟や採集をして暮らしていたんだね。弓矢が登場するの、ちよつとこの頃なんだ。」

「やよい」どんな動物がいたのかな？」

けんた「旧石器時代の人が食べていたソウは、気候の変化と



石で作ったおの

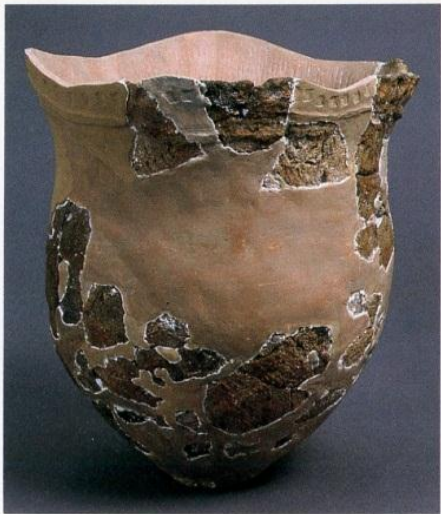


肉や皮を切ったりなめしたりする道具



石のおもり





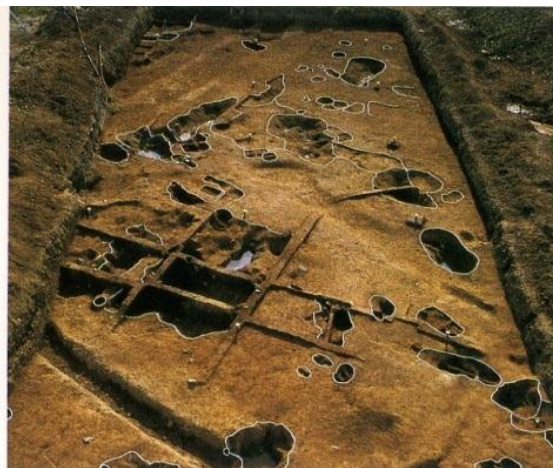
**原田西遺跡**

原田西1丁目付近に所在。猪名川下流の沖積低地にあります。弥生～古墳時代の河川、生活用水路とともに、縄文中期の土器が1点だけ出土しました。付近に集落跡があったとすれば、当時の海岸線を考える上で重要です。



**新免遺跡**

玉井町3丁目で見発見された方形周溝墓(弥生時代中期)の溝の中から、縄文早期の打製石器が1点出土しました。やじりに似た形をしていいますが、何に使ったのかはよくわかっていません。一部が磨かれてあり、「異形局部磨製石器」、「ト口ト口石器」などとも呼ばれています。付近から、同じ時代の生活跡が見つかる可能性があります。



**野畑春日町遺跡**

春日町4丁目に所在。千里川右岸の中段段丘上にある遺跡。約10000年前(縄文草創期)の石の槍先、約4000年前(縄文中期)の大小の土坑(地面を掘りこんだ穴)、土器類などがみつかりました。大小の土坑のうち2基については、土の成分を調べた結果、人を埋葬した墓である可能性が指摘されています。現在の野畑図書館付近。



石の槍先



野畑春日町遺跡から出土した土器

が、実際に野畑遺跡から出土しているんだ。」

**やよい** 「森に住む縄文人たちって、狩りばかりしてるってライメージが強かったけれど、土器やいろんな道具を使うことによって、動物の肉以外にも、森に生える植物なんかをたくさん食べていたのね。」

**けんた** 「うん、自然にたよる生活ではね、いつも決ったものしか食べないと、それが不作の年には飢えて死んじゃうんだ。だから、日頃から何でも食べられるようにしておかないと、生きていけないんだね。」

**やよい** 「なるほど。でも季節によって、食べものの種類もずいぶん違っていったんじゃない。」

**けんた** 「寒い冬のあいだは、食べられるような植物は採集できなから、狩りが中心。反対に春や秋には、木の芽やドリムクがいっぱいあるから、あまり狩りをする必要はなかったかもしれないね。」

**やよい** 「それにしても縄文人って、いつごろ山へ行けばどんな木の芽が生えているとか、いつごろ海に行けばどんな魚が泳いでいるってことが、どうやってわかったのかしら。」

**けんた** 「ぼくたちはいま、何年何月っていう数字のカレンダーを見ながら生活しているよね。でも縄文人たちは季節の移りかわりを、自然の風景の小さな変化から、はっきりとよみとる力を身につけていたんだ。何百年、何千年というながいながい経験の中からね。」

**やよい** 「ドングリって食べられるの?」

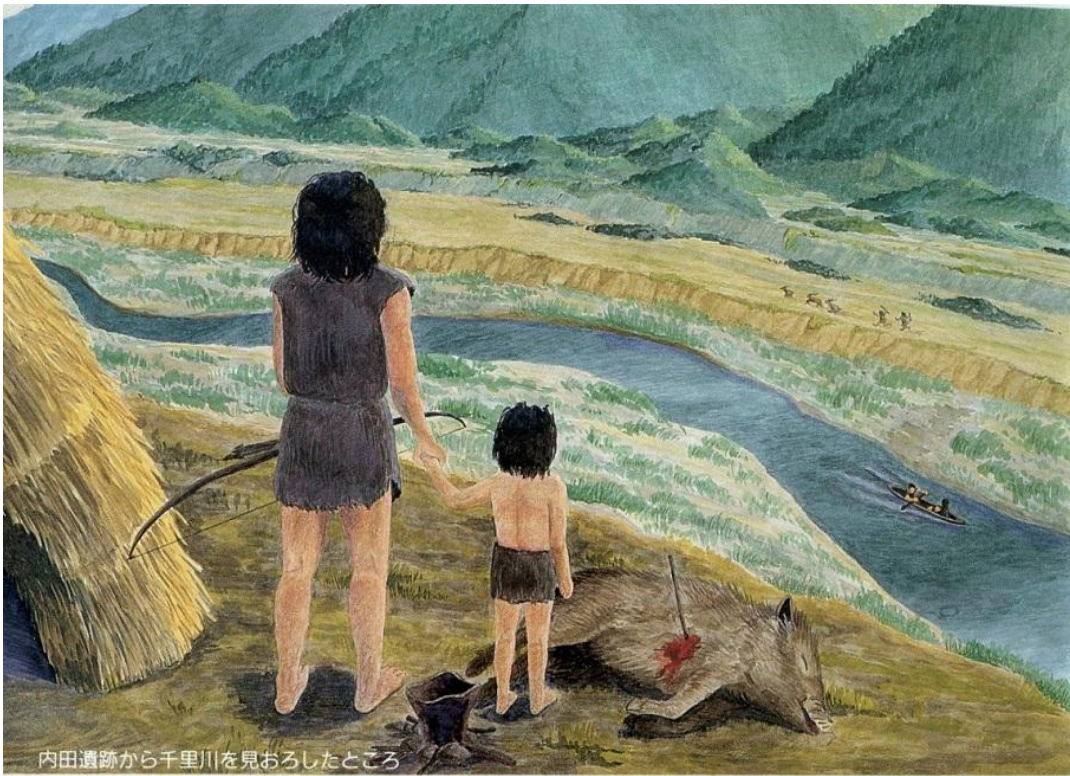
**けんた** 「クリやクルミやシイを除けば、カシ、トチ類はそのままではアクが強くて食べられないんだ。そこで、土器が重要な役目を果たすことになるんだよ。」

**やよい** 「どついうこと?」

**けんた** 「つまりね、土器で煮たり炊いたりして、アクを抜くことによって、それまで渋くて食べられなかったドングリが食べられるようになったんだ。」

**やよい** 「土器の発明が、食生活をたいへん豊かなものにしたってわけね。」

**けんた** 「そのとおり。それにね、アクを抜くために、ドングリをすりつぶしたり、こねたりするための磨石や台石なんか



内田遺跡から千里川を見おろしたところ



うちだ いせき  
内田遺跡

桜の町3丁目所在。千里川を間近に見おろす低位段丘上にあります。径1~2m、深さ30~40cmの土坑が数ヶ所みつかりました。土坑の中からはたくさんの土器が出土し、この付近に一時期、ムラが営まれていたと思われます。縄文後期。

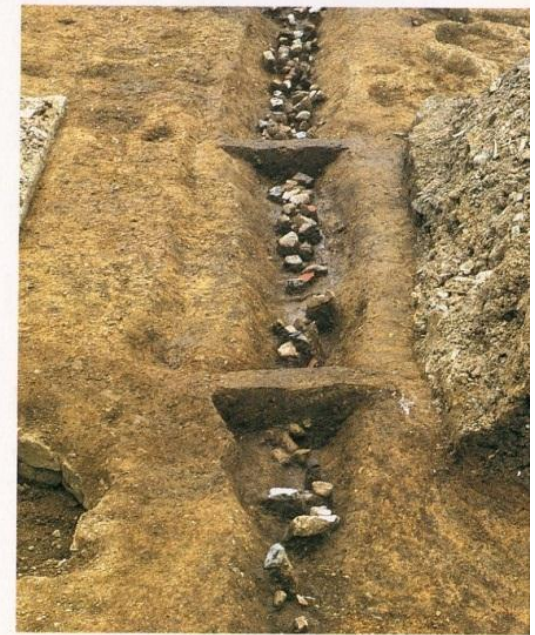


しばらいせき やまのうえいせき  
柴原遺跡・山ノ上遺跡

柴原遺跡は、柴原町1丁目の低位段丘にあります。石のやじりとともに、縄文晩期の土器片が出土。一方の山ノ上遺跡は宝山町に所在。豊中台地末端の段丘上にあります。興味深いことに、弥生時代前期に掘り込まれた溝の中から、多くの弥生土器とともに縄文晩期の土器片が出土しました。弥生時代になってもなお、縄文色をつよく残した人々が豊中に住んでいたことを物語っています。



縄文晩期の土器  
(左の二つが山ノ上遺跡  
右の二つは柴原遺跡からそれぞれ出土した。)



縄文土器が出土した弥生時代前期の溝  
(山ノ上遺跡)

けんたくん。もしもね、朝めをさましたら、どこかのジャングルに、一人で裸でぼつんといった、なんてことになったらどうする？

うーん、とりあえず何かを着なきゃいけないし、それよりもまず、食べ物やさぐさなくっちゃ……。でも、服もなければ家もないし、なにを食べていいかもわからないだろうね。

そう。考えてみるとわたしたちは、一人じゃ何にもできないってこと。生活に必要な道具は、全部ほかの人が作ってくれるし、食べ物だって、市場へ行けばすぐ手に入るわ。

でも縄文人たちは、自然にあるものを利用していろんな道具を作っていたし、なにをどうすれば食べられるようになるか、ちゃんとわかっていったんだね。

わたしたちは、たしかに今、高度な文明社会に生きているわ。でも人間として生きていくための基本的なことを、忘れかけてしまっているんじゃないかしら。

縄文人たちは僕たちに、何か大切なことを教えてくれているような気がするね……。

